

33.65~34.33‰, DOは3.65~3.95 ml/l、およびCODは<0.01~0.18 ppmである。また PO₄-Pは<0.01~0.04 μg-at/l、NH₄-Nは0.70~1.20 μg-at/l、NO₂-Nは0.03~0.04 μg-at/l、およびNO₃-Nは0.28~0.31 μg-at/lである。1986年1月8日の水温は18.3~20.1℃、PHは8.39~8.49、塩分濃度は25.2~25.3、DOは4.86~5.05 ml/l、およびCODは0.03~0.30 ppmである。また、PO₄-Pは0.07~0.14 μg-at/l、NH₄-Nは0.43~0.57 μg-at/l、NO₂-Nは0.07~0.14 μg-at/l、およびNO₃-Nは0.32~0.48 μg-at/lである。

要 約

- (1) 藻場の消長を調べるために定点に方形枠を設置し、ほぼ毎月1回枠内のリュウキュウアマモ、リュウキュウスガモ、および海草全株数を計測した。そしてリュウキュウアマモは前年度と同様に低い水準で推移し、リュウキュウスガモは夏季500株/m²以上の繁茂状況であった。
- (2) 1985年7月4日と12月16日底生動物の調査をおこない線虫類、定在目、および遊在目が多く出現した。
- (3) 1985年4月8日から1986年2月12日までほぼ毎月1回葉上動物調査をおこなった。そして遊在目、定在目、クマ目、端脚目、長尾類、および短尾類が多くみられた。
- (4) 1985年6月26日から8月16日かけてほぼ毎週1回アイゴ類幼魚の調査をおこない、シモフリアイゴの長叉長と採捕時期では $y = 29.273 \cdot e^{0.0112x}$ 、体重と採捕時期では $y = 0.3060 \cdot e^{0.0357x}$ の関係式を得た。また、アミアイゴの尾叉長と採捕時期では $y = 34.758 \cdot e^{0.0078x}$ 、体重と採捕時期では $y = 0.5100 \cdot e^{0.0283x}$ の関係式を得た。
- (5) 1985年6月17日から22日まで罟網漁獲試験をおこなった。そして5日間の取り揚げで合計23種類、31個体、約7.52 kgの漁獲があった。
- (6) 名蔵湾内定置網漁獲量調査をおこない周年にわたる魚種別漁獲量の変化を調査した。また過去5年間の漁獲量を調査し、1982年以降年間漁獲量は増加する傾向がみられ、とくに4月から6月にかけての漁獲量が多い。
- (7) 1985年11月20日に人工礁の調査をおこない約12種類、90個体の魚類等が増集しているのを観察し、フェダイ類や稚エビ類が多くみられた。
- (8) 1985年4月12日、7月24日、11月13日、および1986年1月8日に水質調査をおこなった。測定項目は水温、PH、塩分濃度、DO、COD、PO₄-P、NH₄-N、NO₂-N、およびNO₃-Nであり結果は前年度とほぼ同様であった。

参考文献

- 日本気象協会 1981. 海洋観測指針 429 pp.
- 日本水産資源保護協会 1980. 新編・水質汚濁調査指針 552 pp.
- 沖縄県水産試験場八重山支場 1983. 昭和57年度保護水面管理事業調査報告書 51 pp.
1985. 昭和59年度保護水面管理事業調査報告書 45 pp.
- 東海大学海洋学部 1980. 魚類図鑑 379 pp.